

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	ケニアにおいて大規模な暴動や紛争が発生する危険性が削減され、紛争が未然に予防される。 →7月7日の反政府集会「サバサバデー」と8月11日のマザレ選挙区補欠選挙の直前、暴動の危険性を削減する活動を集中的に実施し、こうした活動を受けた裨益者の介入によって、大規模な紛争を未然に予防することに貢献した。 1990年に複数政党制民主主義を勝ち取った民主化運動・反政府デモにおいて歴史的な意味合いを持った「Saba Saba」を合言葉に大規模な反政府集会が、本年7月7日にも計画され国全体で緊張が高まった(サバサバデー：スワヒリ語で7月7日の意味)。事業対象地であるマザレ・スラムでは異なる民族に出自を持つ最貧困層の人々が無秩序な過密コミュニティの中で生活している為、民族対立を煽る政治的キャンペーンの影響を容易に受けやすい。住民同士の小さなトラブルから一気に大規模な暴力や暴動に発展する大きな危険性が常に潜んでいる。また、2013年3月の大統領選挙時に当選したマザレ選挙区の議員についても、2014年5月の裁判結果により辞職に追いやられ、本年8月11日に補欠選挙が行われた。その補欠選挙に向けて、マザレ・スラム全域で各政党による選挙キャンペーンが頻繁に行われた。 この様な不穏な情勢を背景に、今フェーズは7月7日の直前に、マザレ・スラムでの紛争予防を目的とした事業活動を継続して行った。第1フェーズから継続して早期警戒の指標をモニタリングしているセキュリティ・フォーカス・ポイント(SFP)¹への3日間のフォローアップ研修を6月30日～7月2日に、防犯パトロール隊への研修を7月3日～4日に、7月5日にジェンダーに基づく暴力(GBV)に関する防犯啓発活動及び平和啓発イベントを効果的に実施し、平和のメッセージをコミュニティに対して発信した。結果的に、マザレ・スラムにおいて、サバサバデーに大規模な暴動や紛争は報告されず、平和裏に終わった。 また、8月11日のマザレ選挙区の補欠選挙を目前に、様々な政党による選挙キャンペーンがマザレ・スラムで行われ、異なる政党のサポーターによる対立や暴動が懸念された。このような状況下で、本事業を通じて構築された早期警戒・早期対応ネットワーク(住民が主体となって紛争を予防するメカニズム)が機能し始め、SFPの迅速な判断と適切な対応により、暴動の危険性が削減された事例が報告されている(事例の詳細は別紙4参照)。 コンポーネント2に関しては、第1フェーズから継続して行っている30名のコミュニティ・アニメーター²(CA)及び上級カウンセラー³による心理社会的ケアチームのカウンセリングに一定の成果が表れ、マザレ・スラムでの治安改善に貢献している。8月22日に行ったフォーカス・グループ・ディスカッション(FGD:参加型インタビュー)では、「犯罪者はカウンセリングを通じて、犯罪から足を洗い建設的な仕事に携わるようになった」、「学校でのカウンセリングは退学者を減少させ、学校を辞めて薬物や犯罪に手を染める若者による犯罪の減少に貢献している」、「民族混成のグループセラピーを行うことで相互交流が促進され、同胞精神が育まれ、住民は民族共生と寛容さについて学んだ」等、カウンセリングの効果について評価する声が挙がっている(詳細は別紙1参照)。
(2) 事業内容	8月末時点で、本事業期間のうち半年近くが経過した。この間に実施された事業内容は下記の通りである。 コンポーネント①：民族間の対立回避ネットワーク強化・評価 (ア) 5月28日に今フェーズ開始セレモニーに併せて、第1回の警察機構と学校との共同啓発活動を開催した。 (イ) 14名のSFPによる早期警戒モニタリングを継続的に行った。 (ウ) 6月30日～7月2日の3日間に、SFP14名と現地市民団体(CBO)メンバー3名を対象に早期警戒・早期対応フォローアップ研修を実施した。 (エ) 8月4日に早期警戒啓発地域フォーラムを開催した。 コンポーネント②：被害者・弱者保護 (オ) 合計8か所のチャイルド・セラピー・ルームにて、6名の上級カウンセラーおよび24名

¹ マザレ・スラムの各7地区から選抜された14名の男女。早期警戒ネットワーク強化のため、主要な役割を担い、各地区で紛争の火種や予兆の早期発見と、早期対応の為に適切な関係者へ円滑な情報伝達を行っている。

² マザレ・スラムに住む住民から選出され、研修を経て、スラム住民への心理社会的ケア、カウンセリング、仲介努力、他機関へのリファラル(紹介)等を実施している。

³ CAを指導・監督する立場にあるカウンセラー。CAが対処できない案件を、代わりに請け負うこともある。

	の CA によるカウンセリングを実施した。 (カ) 5 月 2 日、6 月 20 日、8 月 20 日に計 3 回、6 名の上級カウンセラーおよび 24 名の CA を対象にカウンセリング専門家によるフォローアップ・セッションを実施した。 コンポーネント③：防犯居住環境整備 (キ) 共同清掃活動を合計 4 回実施した。ゲイ 1 地区 (5 月)、キアマイコ地区 (6 月)、マザレ・ノース地区 (7 月)、フルマ B 地区 (8 月) における全ての清掃活動で多くの学生、若者、地域住民、地域リーダーが参加し、清潔な環境や地域安全の推進および平和啓発も行った。 (ク) 7 月 3 日、4 日に防犯パトロール隊メンバーへの GBV 防犯研修を実施した。 (ケ) 7 月 5 日にゲイ 1 地区にて、宣伝カーや 500 枚のパンフレットの配布を通じて GBV 防止に関する危険回避啓発活動を行うと共に、平和のメッセージを発信した。 (コ) 7 月 25 日にキアマイコ地区の Valley Bridge 小学校、8 月 30 日にフルマ警察署にて植樹祭を実施した。小学校では 110 名が参加し、清潔な環境・自然を保つことの大切さや、平和の大切さを訴えた。 (サ) 下記の他のイベントと併せて平和大使選考イベントを 4 回に分けて行い、プロジェクト地域 7 地区から 1 名ずつ、計 7 名の選出を行った。 ① 5 月 28 日の今フェーズ開始セレモニー ② 7 月 5 日の GBV 防止・危険回避啓発イベント ③ 8 月 4 日の早期警戒啓発地域フォーラム ④ 8 月 21 日に単独イベントとして最終選考を実施 (シ) 8 月 18 日に危険地帯での防犯パトロール隊による事後モニタリングを実施した。 (ス) 8 月 22 日に女性、男性、子供の 3 グループへ FGD を実施した。
(3) 達成された効果	事業全体の成果 指標 1：各コミュニティから公平に抽出した女性・若者・子どもの各グループに対して、事業活動開始前および実施後に治安に関する FGD を実施し、事業実施後に具体的な治安の改善があったことが報告される。 →FGD が実施され、平均 85.4%が治安改善を報告した。 女性(若者含む)、男性(若者含む)、子供の各グループへ 8 月 22 日に FGD を実施し、85.4%(女性 93.8%、男性 81.8%、子供 78.6%) が過去 6 カ月間において治安は改善されたと回答した(詳細は別紙 1 参照)。特にゲイ 1 地区では、心理社会的ケアチームのカウンセリングを通じて、若者が犯罪に手を染めず学校に行くように指導を受けている為、治安が改善しているとの意見があった(女性グループ FGD 結果)。また、事業活動の一環で行った警察官、役場長(各地区行政担当者)や地域リーダーとの交流フォーラムが治安改善に貢献しているとの声があがった。さらに、心理社会的ケアチームのグループセラピーにより、同胞の精神が育まれ、住民は民族共生や寛容さについても学んでおり、治安改善において良い影響を与えているとの評価があった。 指標 2：第一フェーズで「危険地域」と特定された場所で住民へのインタビューを年に 2 回実施し、犯罪発生率の低下が確認される。 →インタビューが実施され、地域の危険度が 5.89%~6.62%低下したことが確認された。 「危険地帯」と特定された場所において、8 月 18 日にパトロール隊 52 名により住民への路上インタビューを実施した。前フェーズ終了時の 2 月末の路上意識調査では「安全或は非常に安全」と回答した住民は 12.35%であったが、今回は 18.24%が「安全或は非常に安全」と回答した為、5.89%の改善が確認された。また、前回 2 月末の路上意識調査では、「危険或は非常に危険」と回答した住民は 88.37%であったが、今回は 81.75%が「危険或は非常に危険」と回答した為、6.62%の改善が確認された(詳細は別紙 2 参照)。2 回目の路上インタビュー調査は来年 2 月に実施予定である。FGD では、犯罪が起こりやすい危険地域についての情報発信や啓発活動が、レイプ件数の減少に大きな役割を果たしているとの評価があった。 コンポーネント①：民族間の対立回避ネットワーク強化・評価 指標 1：100 名以上の住民が早期警戒啓発活動の地域フォーラムに参加する。 →93 名が参加した(達成率 93%)。 8 月 4 日に開催された地域フォーラムへは 93 名が参加した。参加者は、警察関係者 10 名、行政関係者 5 名、地域リーダー・宗教リーダー 13 名、教師 10 名、他若者・学生を含む地域住民が

集い、マザレ地域の治安改善という共通の課題において、それぞれの立場を認識し協力関係を強化する機会となった。第 2 回目の地域フォーラムは、1 月下旬に実施予定である。
指標 2：警察・学校との共同啓発活動にのべ 150 人以上が参加する。 →40 名が参加した（達成率 26.7%）。
5 月 28 日の今フェーズ開始セレモニーと併せ、第 1 回目の警察・学校との共同啓発フォーラムを開催し 40 名が参加した。警察関係者、学校関係者、高校生代表をはじめ、行政関係者、プロジェクト実施 CB0、心理社会的ケアチームと SFP チーム代表等の地域住民が参加し、マザレで重要な課題となっている警察と若者の関係改善について、参加者の気づきや意識変革、今後の行動変容のきっかけとなる啓発フォーラムを実施した。第 2 回目は 9 月中旬、第 3 回目は 11 月に実施予定である。
指標 3：FGD において、地域住民の警察官・地域行政官に対する信頼の度合いが事業開始時から 20%改善されたことが報告される。 →警察官への信頼度は 9.8%、地域行政官への信頼度は 4.9% 改善した。
8 月 22 日に行った FGD において、過去 6 か月間でそれぞれ警察官、役場長（地域行政官）に対しての信頼の度合いについて意識調査を行った。警察官に対しては、「改善した」と回答した住民は 9.8%（男性 27.3%、女性 6.3%、子供 0%）、役場長に対して「改善した」は 4.9%（男性 18.2%、女性 0%、子供 0%）の回答があった。どちらも過去 6 か月間で「同じ」と答えた住民が圧倒的に多く、警察官に対して 78.1%（男性 72.7%、女性 93.8%、子供 64.3%）、役場長に対して 65.9%（男性 45.5%、女性 87.5%、子供 57.1%）という結果となった（詳細は別紙 1 参照）。事業活動のフォーラム等へ警察官や役場長が参加することで住民との距離が縮み、歩み寄りやすくなっているとの意見がある反面、未だ課題は多い。今フェーズ後半には、更に警察・行政とのフォーラムを予定しており、住民との関係改善に重点的に取り組む。
コンポーネント②：被害者・弱者保護
指標 1：1,000 名以上の暴力・犯罪被害者が、CA による心理社会的ケアを受ける。 →437 人がケアを受けた（達成率 43.7%）。
合計 437 名（女性 237 名、男性 200 名）が 8 か所のチャイルド・セラピー・ルームにアクセスし、心理カウンセリングを受けたか、適切な他の支援機関を紹介された。心理社会的ケアの受益者目標は 1,000 名であるから、達成率は 43.7%である。更に、前フェーズから継続してカウンセリングを受けている裨益者数は 98 名である。個人カウンセリングを通じて必要と判断されたクライアントに対して、他機関への紹介を計 25 件行い、救済・保護施設や病院等の各専門機関から適切な支援を受けられるようにした。なお、710 名（女性 366 名、男性 344 名）がグループセラピーを受け、その中で必要と判断されたクライアントへは上記個人心理カウンセリングへ移行するよう促している。
指標 2：犯罪被害者情報をもとに、CA らと行政関係者との弱者保護のアプローチに関する対話が促進される。 →訪問 1 件、紹介 2 件が報告された。
マザレ 4A 地区の上級カウンセラーが同地区担当の行政関係者を訪問し、GBV 事件への協力体制について協議した。家庭内暴力 1 件、児童虐待 1 件の計 2 件についてマザレ 4A 地区の行政担当者へ紹介が行われ、行政官が事件の解決にあたった。
コンポーネント③：防犯居住環境整備
指標 1：のべ 1,000 人以上が共同清掃活動に参加する。 →529 名が参加した（達成率 52.9%）。
これまでの計 4 回の共同清掃活動で毎回約 132 名、合計約 529 名が参加しており、目標の 52.9%が達成された。残り 5 回を毎月月末に実施予定である。
指標 2：のべ 50 名以上が地域防犯パトロールの研修を受講する。 →43 名が受講した（達成率 86%）。
7 月 3 日、4 日に地域防犯パトロール研修を実施し、計 43 名が参加した。主に GBV の対処法、危険地域での防犯パトロールの留意点、および地域での GBV 件数を減らす為の対策について等、実践的な内容を含む研修を行った。

	指標3：「危険地域」と特定された場所を、防犯パトロール隊がモニタリングした結果が報告される。 →モニタリングが1回実施され、結果が報告された。 「危険地域」と特定された場所周辺にて8月18日に、防犯パトロール隊52名による路上意識調査を実施した(詳細は別紙2参照)。 前回の2月末の結果では、「危険地帯」での一番の脅威は何かという問いに対し、レイプと答えた女性が19.1%に対し、今回は14.5%に留まり、4.5%の改善が見られた。更に2月の結果では、「なぜ警察へ通報しないのか」という問いに対し、「警察は信用できない」と答えた人は84.7%に対し、今回は74.6%の回答に留まり10.1%の改善があった。
(4) 今後の見 通し	コンポーネント①：民族間の対立回避ネットワーク強化・評価 (ア) SFP14名による早期警戒モニタリングの継続実施 (イ) 9月中旬と11月に警察・学校との共同啓発活動を実施 (ウ) 9月19日(金)に「国際平和デー(9月21日)」地域フォーラムを開催 (エ) 9月末と12月に3日間の早期警戒・早期対応フォローアップ研修を実施 (オ) 10月に警察・行政フォーラムを実施 (カ) 1月に早期警戒地域フォーラムを実施 (キ) SFPの早期警戒モニタリングによる集積データの分析と分析結果レポートを行政官や警察官へ配布 コンポーネント②：被害者・弱者保護 (ク) CA及び上級カウンセラーによる心理社会的ケアの提供、裨益者に関するデータの集計と分析 (ケ) 10月、12月、2月にCA及び上級カウンセラーへのフォローアップ研修実施 (コ) 裨益者データの分析と結果について行政機関や関連団体と共有 コンポーネント③：防犯居住環境整備 (サ) 平和大使選出の最終イベントを9月に国際平和デーイベントと併せて実施 (シ) 共同清掃活動及び植林活動を残り5回毎月実施 (ス) 11月下旬にGBV及び地域防犯パトロールに関する能力強化研修を実施 (セ) 12月に危険回避啓発活動を実施 (ソ) 2月に「危険地域」での住民への路上インタビューを実施 (タ) 3月に3グループへFGDを行いプロジェクトの終了時評価を実施